

被災地カーシェアリング活動報告・パート 3



平成 28 年 9 月 12 日
一般社団法人日本カーシェアリング協会
代表理事 吉澤武彦

1. はじめに

2011年、2014年と過去2回にわたり、宮城県石巻市での私たちの取り組みをこの「総合交通メールマガジン」にてご紹介いただきました。最初は震災後の初動から立ち上げについて紹介させていただき、次に『被災地での』『コミュニティ・カーシェアリング』という活動全体の輪郭がある程度できてきた頃だったのでその紹介をさせていただきました。あれからの2年、私たちは『平時での』『コミュニティ・カーシェアリング』という新しいコンセプトの確立に向けて、産官学民が連携し、一歩ずつ取り組みを進めてまいりました。今回は、この2年の私たちの取り組みと新しく広がったその先の可能性について、ご紹介させていただきます。

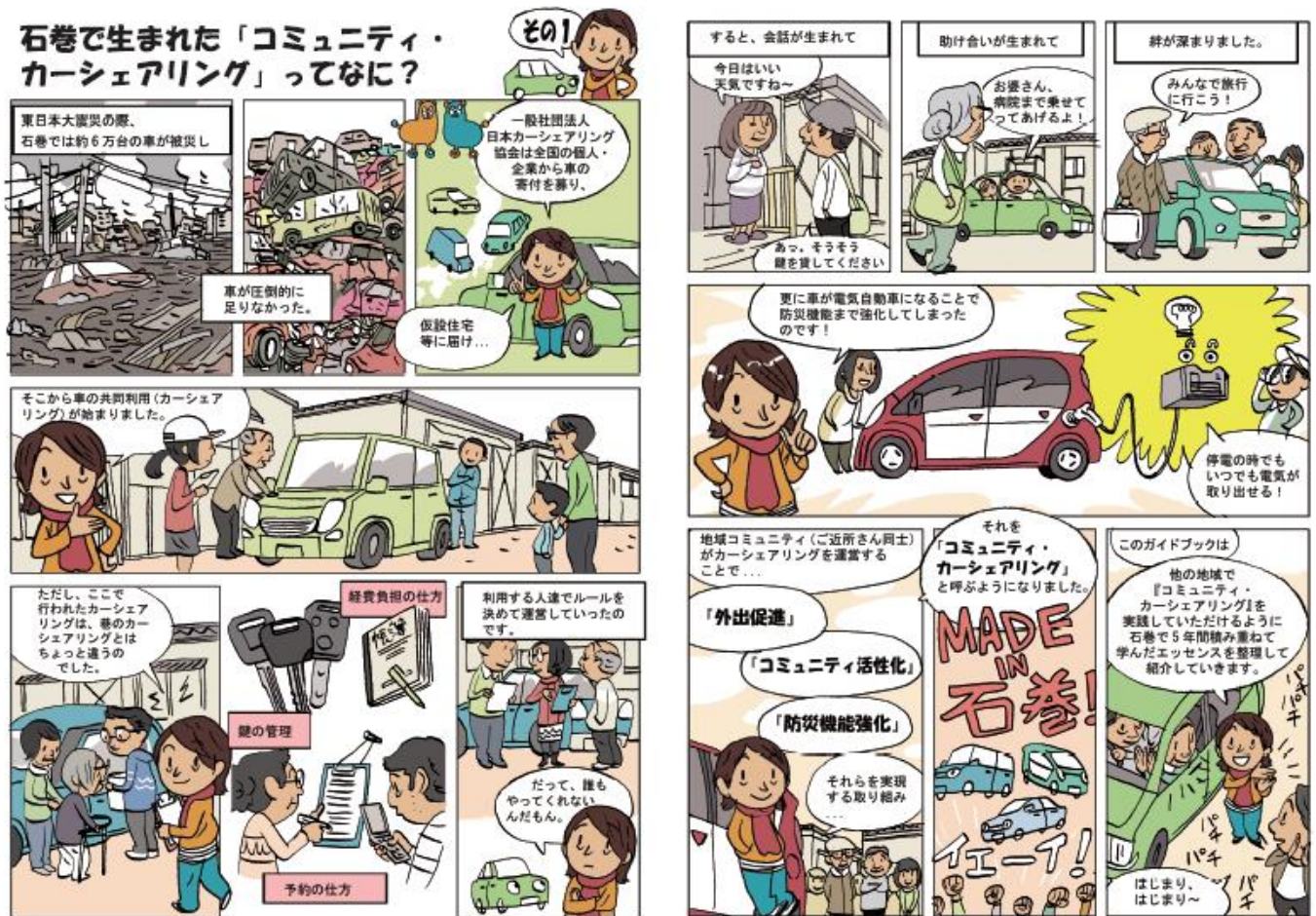
過去にご紹介いただいた記事

<http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/soukou/soukou-magazine/39.pdf>

<http://www.mlit.go.jp/sogoseisaku/soukou/soukou-magazine/77.pdf>

2. 石巻で生まれた『コミュニティ・カーシェアリング』とは

こちらの漫画をご覧ください。



3. 社会実験で整理された仕組み

2014年11月に石巻市役所の5つの関係課（現在は11の課）・地元の大学・住民組織・コンサルタントらで「石巻エコEVカーシェアリング検討委員会」が設立されました。ここでは、ある一か所の復興公営住宅を社会実験の場として、太陽光発電で充電する電気自動車で行うカーシェアリングを導入しました。コミュニティ・カーシェアリングの効果の検証と持続的なモデルに向けての体制づくりについての模索を行い、次の年度以降の展開について決定することを目指し取り組みが進められました。導入に向けて様々な協議と協力を得て、2015年6月に吉野町復興公営住宅に導入されました。

2015年6月社会実験スタート（～2016年3月）



そこから、現場でカーシェアリングを住民の皆さんに取り組んでいただきながら、利用者にインタビューを行い、それを毎月開催される検討委員会の会議で報告したり、移動支援の専門家や東北運輸局等の公的機関との意見交換を行い、それらで得られた意見を現場に反映させながら取り組みを進めてまいりました。

検討委員会でのモデル化に向けての取り組み



説明会・利用ミーティング



現場での活用



検討委員会での協議
専門家へのヒアリング



利用者へのアンケート・インタビュー

仮設住宅で実施してきた「被災地カーシェアリング」は、地域住民による個人のボランティア活動に支えられており、また、貸し出しの対価を協会が受け取っていないため、持続性という点で大きな課題を抱えていました。検討委員会ではそれを改善させるために協議の末、新しい『コミュニティ・カーシェアリング』を以下のように整理しました。



ポイントは以下の3点です。

1. 車を共同で運営する利用者は、地域活性化を目的とした会則を定め、その会則（ルール）にのっとって非営利（経費を定期的に精算する方式）で車を運営する。
2. 外出支援行為が伴う場合は、送迎の対価は決してドライバーは受け取らず、ただ、会の運営にかかる経費は会で負担し、会の運営役員には最低限の役員手当を支給することでボランティアに活動する個人の負担を減らす。
3. 日本カーシェアリング協会は、車を有料で貸し出し、会の運営をサポートする。そのサポートを行政や地域が行うことで組織を維持する。

検討委員会では、アンケート調査を通して効果の検証も行いました。

アンケート結果

(有効回答総数：約150世帯中 68世帯)

移動

移動困難な状況が改善され、
外出頻度が増加している。

Q. 移動困難が改善しましたか？※



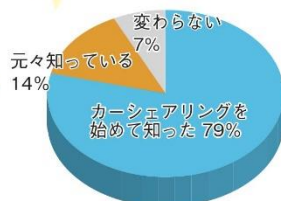
Q. 外出頻度は増えましたか？※



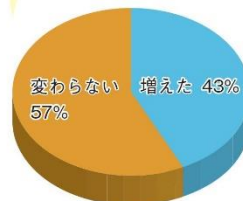
防災

電気自動車の防災利用への認知が高まり、避難時の住民間の連携も取りやすくなった。

Q. 電気自動車の防災利用
(車から電気を取り出せること)
について知っていますか？※



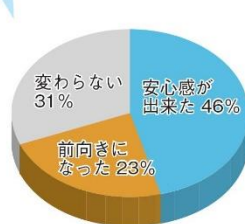
Q. 災害時、声を掛け合って一緒に避難できる人が家族以外に増えましたか？※



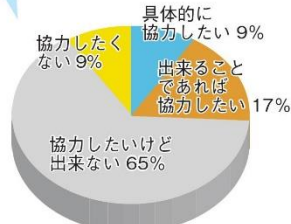
精神面

精神面でもポジティブな変化があり、参加できる地域活動としても関心が生まれている。

Q. 気持ちに変化はありましたか？※



Q. カーシェアリングへの協力について

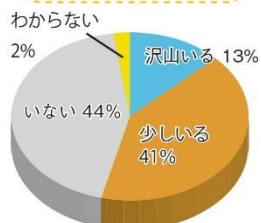


Q. 団地内に仲の良い知り合いはいますか？

コミュニティ

利用していない人と比べて人づきあいが圧倒的に増えている。

カーシェア利用者以外



カーシェア利用者



※の設問はコミュニティ・カーシェアリングの利用者のみにご回答を頂きました。

アンケート調査結果では、移動・防災・精神面・コミュニティ形成においてそれぞれポジティブな結果がでました。特にコミュニティ形成に関しては、特に際立った効果が確認されました。

継続性を見据えた型が整理され、効果が確認されたため、検討委員会では他の地域への展開が決まり、現在他の復興住宅への導入が進められるようになりました。また、電気自動車を活用した防災ネットワークの構築や過疎地でのモビリティの確保のための公共交通機関とコミュニティ・カーシェアリングの連携についての検討も始まりました。

そして、私たちは、検討委員会で整理した内容を実践ガイドブックとして40ページの漫画冊子にしました。冒頭の説明の漫画もそれにあたるわけです。「石巻を社会の雛形とする」ということを目指し取り組んできた5年間の集大成として作成しました。



(ガイドブックの写真)

こちらからダウンロードできるので、ぜひ一度中身をご覧ください。

<http://japan-csa.seesaa.net/article/434535494.html>

※冊子が必要な場合ご連絡いただければ着払いにてお送りいたします。

※英訳版も上記サイトからダウンロードいただけます。

また、『コミュニティ・カーシェアリング』を実践している団地が実際に使用している会則やルール等もアップしているため、そちらもぜひご確認ください。

4. オーストリアの CARUSO との運命的な出会い

2016年2月、ウィーン工科大学で交通について研究されていらっしゃる方から調査依頼がありました。オーストリアで私たちとよく似たカーシェアリングに取り組んでいる事業者の研究をされており、その比較を行いたいとのことでした。そして、驚いたのがその研究

者の方、柴山先生は、石巻出身の方だったのです。

3月と4月に石巻に来られ、ヒアリング調査を受けた際、オーストリアの事例についてお話を伺ったところ、私たちのように近隣住民らで車をシェアしているのですが、ITシステムを利用しより便利にそれを実現しているとのことで、6月に早速オーストリアに視察に伺わせていただきました。



CARUSOはオーストリアの中でもスイスとドイツの国境近くのブレゲンツという場所に位置し、実際にカーシェアリングが行われている現場は、山間部等いわゆる田舎で実践されていました。元々2010年頃から一つの集合住宅で移動性と持続可能なライフスタイルを模索する実験的な試みから始まりました。そこに政府が助成し、オンライン予約システムやGPSを搭載した車載システムが開発され、さらに税金、法律、保険、契約、料金等の計算方法などの、様々な側面について検討がなされ、仕組みが構築されました。2015年6月にCARUSOカーシェアリング協同組合が設立され、最初の1年の間に、運輸連合、地方自治体、電力公社、そして複数の地域を代表する企業といった、重要な関係者を組合員として迎え取り組みが進められています。



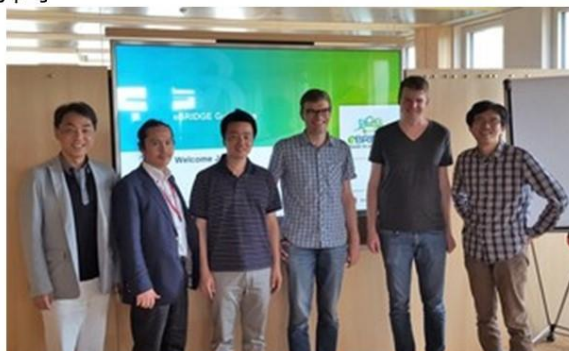
(CARUSOのカーシェアリングが行われている場所)

私たちは CARUSO を訪れ意見交換を行い、その仕組みを学びました。

caruso 訪問 CARSHARING

6月19日

- ・お互いの事例共有
- ・システムについて詳しく解説。



CARUSO も私たちと同様、利用者同士でルールや料金を決めて車を使用しています。この場合グループの責任者は車の所有者です。ただ、CARUSO と私たちの一番の大きな違いは、車を持たず、システムを提供しているという点です。彼らはいくまで、車をシェアするためのプラットフォームを提供しているだけなのです。

CARUSOの仕組み



私たちは実際に利用する利用者の話を聞きました。その中で自治体が CARUSO のシステムを導入し公用車をシェアしているケース等もありました。各自治体は環境政策や生活困窮者支援といった福祉政策の観点から導入し、年会費の負担や、市報やバスの車内広告で PR を行うなどの支援していました。

自治体との連携

Sulzberg (ズルツベルク)



人口 1,900人
4台の車をシェア
(役所の社用車、教会の車を市民に開放)

カーシェアリングの実施理由は環境に対する下記目的を遂行するため

1. 2050年までにはエネルギーの自立を目指す。
2. 車はできる限り電気自動車に移行させて、2025年までには1世帯1台以上の車は全てカーシェアリングによって賅う



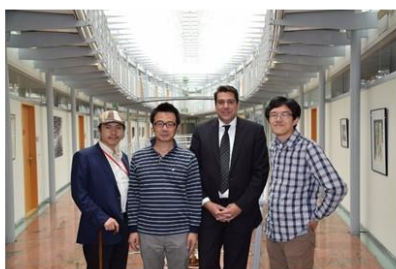
最初の1年間は自治体側で月会費負担。

市報等で広く村民に広報を行い、行政主導でカーシェアリングの普及に努めている。

「物事を始めるには2通りのやり方がある。一つは色々と議論を尽くしてから始める方法。もう一つは、まずやってみて、それから色々と修正する方法。私たちは後者なのです。」

自治体との連携

Hard (ハルド)



人口 1.2万人
2台の車をシェア
(役所の社用車、CARUSOの車)

最初の1年間は自治体側で月会費負担。

Facebook、イベント、バス広告などで行政主導で積極的に広報。



「カーシェアリングはタクシー・バス・レンタカーと役割が違うので他の業界を気遣ったりしません。むしろそれらが賅えないところを補い、相乗効果を作るものだと考えます。もし仮に競合と考えるなら公共の交通機関の最大の敵は自家用車です。」

また、オーストリアには公共交通機関の調整を行う運輸連合という組織があるのですが、CARUSO をサポートしながら様々な公共交通機関との連携に取り組んでいました。

公共の交通機関との連携

運輸連合「VVV (Vorarlberger Verkehrsverbund)」

地域(州)内の公共交通を一元的に管理・運営する機関



他の公共の交通機関と統一させたデザインで車両設置場所に設置

CARUSOへの様々なサポートと連携

1. 協同組合への出資 ※CARUSOは株式会社ではなく協同組合。
2. 自治体が月会費を負担する際の補助
3. 自治体との間に立って様々な調整(車の設置場所など)
4. ユーザー向けの案内にCARUSOについて案内

検討中のサポートと連携

5. CARUSOユーザーの窓口代行
6. 顧客情報の共有化と最適なマーケティングの実施

今年度から実施予定のサポートと連携

7. 共通のカードによる決済システム導入

5. 第1回『コミュニティ・カーシェアリング』シンポジウム in 石

巻の開催

オーストリアへ視察を行っている最中、日本からうれしい連絡がありました。出発する前に申請していた事業の採択通知が復興庁から届いていたのです。CARUSOの創業者、クリスチャン・スティンガー・フォーメッツ氏とウィーン工科大学の柴山先生をオーストリアから招いて、日本とオーストリアで実践してきた事例をテーブルの上に置き、『コミュニティ・カーシェアリング』というコンセプトについて課題と可能性を大いに語り合うシンポジウムを石巻で開催することができることになりました。私たちは、この取り組みをぜひ継続させたいと思い、実行委員会を立ち上げタイトルに『第1回』とつけました。その趣旨に賛同し、クリスチャン氏も実行委員会の共同代表を引き受けてくださいました。津波で多くのものを失った石巻から生まれた『コミュニティ・カーシェアリング』がオーストリアで運命的な出会いを経て、そのコンセプトにより磨きをかけて、石巻だけでなく、他の地域や国へ貢献することを目指し、その一步をこのシンポジウムで踏み出したいと考えております。ぜひともお越しください。詳しくは：<http://www.community-carsharing.com/>

6. 連絡先

一般社団法人日本カーシェアリング協会

代表理事 吉澤武彦

住所：〒986-0005 宮城県石巻市大瓜字鷲巣 45-1 仮設大瓜団地集会所内

E-mail：info@japan-csa.org

TEL / FAX：0225-22-1453

ホームページ：http://japan-csa.org/

Blog：http://japan-csa.seesaa.net/

Twitter：http://twitter.com/#!/JapanCarSharing

Facebook：https://www.facebook.com/japancsa

Bregenz

(オーストリア)

Ishinomaki

(宮城県)

コミュニティで車をシェアする。
そこから、何かが生まれる。

都市部などで展開されている一般的なカーシェアリングではなく、地域コミュニティや近隣の住民同士が主体的に運営し、シェアするカーシェアリングを「コミュニティ・カーシェアリング」と私たちは名付けました。ブレゲンツ（オーストリア）と石巻（宮城県）に生まれた2つのコミュニティ・カーシェアリングが現場で生み出している効果や実情を共有し、この分野の可能性や課題について大いに語り合うシンポジウムを開催します。ぜひ、ご参加ください。

お申し込みは、特設サイトかFAXで
10月6日(木)まで！詳しくは裏面に。

第一回「コミュニティ・カーシェアリング」 シンポジウム in 石巻



10月8日(土) 10時30分~(10時開場)

※10月7日には関係者を対象にした現場視察及び意見交換会を実施します。

石巻市役所6F 議会委員会室

JR石巻駅
出口正面すぐ

参加費無料
定員70名

- 主催：『コミュニティ・カーシェアリング』シンポジウム実行委員会
- 共催：石巻専修大学、東京大学 次世代モビリティ研究センター (ITSセンター)、東北大学 未来科学技術共同研究センター (NICHe)
- 特別協力：CARUSO Carsharing eGen、一般社団法人日本カーシェアリング協会
- 後援：文部科学省東北復興次世代エネルギー研究開発プロジェクト、文部科学省地域イノベーション戦略支援プログラム「次世代自動車宮城県エリア」
- 協賛：株式会社 CDS 経営戦略研究所、株式会社ジェイティップス
- 協力：特定非営利活動法人 ITS Japan、ウィーン工科大学、石巻エコEVカーシェアリング検討委員会、株式会社 NTT データ東北、一般社団法人電気自動車普及協会 (APEV)、公益財団法人国際交通安全学会 (IAISS)

● このシンポジウムは「地域自立支援事業」として実施しております。

新しい東北

復興庁
Reconstruction Agency
新たなステージ 復興・創生へ

コミュニティ・カーシェアリングのブレンツ（オーストリア）と石巻（宮城県）の事例

ブレンツの事例（CARUSO Carsharing eGen）

CARUSO は移動手段の充実と、持続可能なライフスタイルを結びつけることを企図した民間の取り組みとして 2010 年頃に始まった。オーストリア政府からの研究開発のための助成金によって、「コミュニティ・カーシェアリング」のサービスを開発することが可能となり、オンライン予約システムや様々な車載システム、そして法的な面や組織づくりに関する様々な問題が解決された。その成功、特に地方部での電気自動車によるカーシェアリングのそれは、CARUSO Carsharing 協同組合の設立へと繋がった。



石巻の事例（一般社団法人日本カーシェアリング協会）

東日本大震災後、圧倒的に車が不足している中、全国から車の寄付を集め、仮設住宅等で被災された方々を対象にしたカーシェアリングサポートを宮城県石巻市で開始。住民同士でルールを決めて主体的に車が活用されるためのサポートを続け、車の不足を補うシェアはもとより、外出支援、旅行、防災訓練といった活動に発展し、コミュニティが活性化する事例などが生まれる。2012 年 2 月から「カーシェアリング・コミュニティ・サポートセンター」の運営を石巻市から委託し運営を行う。



プログラム紹介 ※敬称略

- 【挨拶】 竹中徹（『コミュニティ・カーシェアリング』シンポジウム実行委員会 共同代表）・ 亀山紘（石巻市長）・ 復興庁（10:30-10:50）
- 【報告】 石巻のコミュニティ・カーシェアリング事例報告・オーストリア視察報告（10:50-11:20）
（一般社団法人日本カーシェアリング協会 代表理事 吉澤 武彦）
- 【基調講演】 カーシェアリングの発展と草の根・コミュニティ型カーシェアリング（11:20-11:50）
（ウィーン工科大学 柴山 多佳児）
- 【特別講演】 オーストリアのコミュニティ・カーシェアリング - 過去・現在・未来 -（11:50-12:20）
（CARUSO Carsharing eGen 創業者 Christian Steger-Vonmetz）
— 休憩 —（12:20-13:30）
- 【講演】 石巻カーシェアの意義と可能性 ～EV、ITS、エネルギー、コミュニティ+αのシェア～
（13:30-14:00）（東北大学未来科学技術共同研究センター 副センター長・教授 鈴木 高宏）
- 【講演】 情報技術がもたらす未来の可能性（14:00-14:20）
（株式会社 NTT データ東北 代表取締役社長 樫部 昌弘）
- 【講演】（仮）共助のモビリティの可能性（14:20-14:40）
（政策研究大学院大学 教授 家田 仁）
— 休憩 —（14:40-14:55）
- 【パネルディスカッション】 テーマ：コミュニティ・カーシェアリングの幕開け（可能性と課題・各種交通機関との連携・今後の展開）（14:55-16:25）
モデレータ：柴山 多佳児 登壇者：Christian Steger-Vonmetz、家田 仁、鈴木 高宏、増田 敬（一般社団法人石巻いちれん 代表理事）、吉澤 武彦
- 【挨拶】 Christian Steger-Vonmetz・吉澤武彦（『コミュニティ・カーシェアリング』シンポジウム実行委員会 共同代表）（16:25-16:40）



ブース展示紹介

関連組織のブース展示を特設スペースにて実施致します。

- 東北復興次世代エネルギー研究開発プロジェクト
（東京大学 ITS センター、東北大学 NiCHE 合同ブース）
- 石巻専修大学
- 電気自動車普及協会（APEV）
- 日本カーシェアリング協会 他

展示予定の
ドライビングシミュレータ



登壇者紹介

家田 仁（政策研究大学院大学 教授）



1955 年東京都出身。東京大学工学部土木工学科卒業、日本国有鉄道入社。1984 年より東京大学工学部助手、助教授を経て、1995 年 東京大学大学院 工学系研究科教授となる。2014 年からは現職となる政策研究大学院大学教授と兼任。また、1980 年代からは西ドイツ航空宇宙研究所交通研究部などへ客員研究員として派遣。社会活動としては国土交通省 交通政策審議会の委員等を勤める。研究分野は交通・都市・国土に関わる諸計画と諸政策。

柴山 多佳児（ウィーン工科大学）



1983 年石巻市出身。東京大学工学部・工学系研究科社会基盤学専攻を修了。ウィーン工科大学に留学後、2011 年より同大学交通学研究所研究員。2012～2013 年には欧州連合の研究プロジェクトとして CARUSO の利用者を対象とした研究調査に従事。

鈴木 高宏（東北大学未来科学技術共同研究センター 副センター長・教授）



1998 年東京大学工学系研究科博士課程修了、工学（博士）。同大生産技術研究所講師、助教授、同大情報学環の後、2010 年から長崎県庁に出向し長崎 EV・ITS プロジェクトを推進。2013 年東大に戻り、2014 年から現職。この他、電気自動車普及協会（APEV）理事。学際的にロボット・次世代交通など先進技術の社会実装に取り組み、仙台市の特区認定に貢献、自動走行等の近未来技術の実証を推進している。

樫部 昌弘（株式会社 NTT データ東北 代表取締役社長）



1965 年 東京都出身。東北大学経済学部経済学科卒業。日本電信電話株式会社入社（現 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ）。2006 年 米国 MIT Sloan Fellows Program (MBA) 修了。2014 年 NTT DATA EMEA 出向 (Based in London)。2016 年 6 月 NTT データ東北 代表取締役社長着任。NTT DATA EMEA 時には、EV（電気自動車）の普及を目指しているオーストリアで、充電管理システム「OCC」のプラットフォームを提供。

Christian Steger-Vonmetz（CARUSO Carsharing eGen 創業者）



1970 年オーストリアのラウテラハ生まれ。グラーツとウィーンの工科大学で交通工学と都市計画を学んだあと、エンジニアコンサルタントとしてキャリアをスタート。1997 年-2003 年オーストリア西部の州フォアアルベルクの公共交通局の業務執行取締役。2004 年から持続可能な交通の分野でコンサルタントとプロジェクトマネージャーを務める。CARUSO Carsharing eGen の立案者であり共同創業者。

吉澤 武彦（一般社団法人日本カーシェアリング協会 代表理事）



1978 年兵庫県姫路市生まれ。立命館大学政策科学部を卒業後、6 年間広告代理店に勤務。退社後、本格的に社会活動に従事し始め、平和や環境に関する様々なプロジェクトに取り組む。震災後、一般社団法人日本カーシェアリング協会を設立し石巻で取り組みを続ける。

申込記入欄（この用紙へご記入の上 FAX 0225-92-7820 へお送りください。）

※WEB からの申込も可能です。（URL：http://www.community-carsharing.com/）申込締切：10 月 6 日（木）定員：100 名

名前			所属	
住所				
電話		E-mail		
備考				

問い合わせ先

『コミュニティ・カーシェアリング』シンポジウム実行委員会

〒986-0821 宮城県石巻市住吉町 1-1-2 TEL：0225-92-7821 FAX：0225-92-7820
Mail：sympo@japan-csa.org URL：http://www.community-carsharing.com/

